

沖縄県透析患者における悪性腫瘍の実態—性差・がん種・頻度—
～沖縄県内透析施設における多施設研究 中間報告～

新川 葉子:1, 石田百合子:1, 田名 毅:2, 井関 邦敏:3

1:首里城下町クリニック第二, 2:首里城下町クリニック第一, 3:沖縄心臓腎臓機構

【背景】悪性腫瘍は男女ともわが国の死亡原因の一位である. 透析患者の予後は改善傾向にあり, 今後は悪性腫瘍の増加も予想される. 透析患者における適切ながん対策を講じるため, 性差を含めた悪性腫瘍の実態を明らかにすることを目的にした.

【方法】2015年1月1日より2019年12月31日の間に沖縄県内で維持透析を行った患者を対象にした. 全75透析施設に悪性腫瘍診断歴がある症例に関する調査票を配布した. 2021年1月末時点で38施設より回答を得た. 今回はデータベースに登録できた25施設分について報告する. 尚, 本研究は群星沖縄臨床研修センター倫理審査委員会の承認済みである(2019-4).

【結果】性, 生年月日や転入・転出記録から重複症例を除外した429例から, 記載不備例や条件を満たさない例を除いた408例, 男性274例(67.2%)/女性134例(32.8%)について解析. 日本透析医学会の2019年末調査と比較して, 導入原疾患の割合は女性で慢性糸球体腎炎が多く(37.3%, 全国29.3%), 男性で糖尿病性腎症がやや多かった(46.0%, 全国42.8%). 観察最終時の平均年齢73.3±11.6歳(男/女, 73.6±11.2/72.8±12.2), がん罹患時の平均年齢68.0±12.7歳(男/女, 68.1±12.3/67.7±13.5)であった. 死亡総数は145人(男/女, 94/51)で癌関連死77人(男/女, 52/25)であった. がん種は多い順に男性で腎・尿路(膀胱除く)71例(22.2%), 結腸68例(21.3%), 前立腺37例(11.6%), 女性で乳腺36例(25.0%), 腎・尿路(膀胱除く)23例(16.0%), 結腸15例(10.4%)であった. 408例中53例に重複がんを認めた.

【まとめ】協力施設数を増やし, 当初の目標(500例)を目指す. 沖縄県がん登録事業による一般住民データとの比較作業を行い, 透析患者における悪性腫瘍の実態を明らかにする.